



市民病院

ハナちゃん通信

問合せ
市民病院管理課
☎(48)5050

歯がなくてもおいしく 食べられる食事を目指して

先日、NST（栄養サポートチーム）で^{えんげ}嚥下調整食の試食会を行いました。嚥下調整食とは、飲み込みの機能が低下した人向けの食事です。当院でも一昨年、日本摂食嚥下リハビリテーション学会の基準をもとに、嚥下調整食の提供を開始しました。開始から2年が経過し、味や見た目のおいしさをより向上させたいという思いから、管理栄養士と相談し、嚥下調整食3（一般でいうソフト食）を試作しました。



写真は魚や肉、野菜のムースです。左下の2つは、見た目には普通の魚の切り身に見えませんか。実際に食べてみると、歯がなくても舌や歯ぐきで押しつぶすことができ、口のなかでよりよくまとまる感じがあります。

一般的にムースやペーストにすると味がぼやけてしまいやすいですが、これは味がしっかりとしており、試食したメンバー全員でとてもおいしくいただきました。

おいしい食事は生きる活力になります。入院中の患者の皆さんが安全・安楽に、おいしく食事をしていただけるように今後もチーム一丸となって栄養サポート活動に取り組んでいきます。



碧南の歴史へのいざない

問合せ 文化財課内市史資料調査室 ☎(41)4566

NO.13 三河鉄道を知っていますか

現在碧南市を走る唯一の鉄道は、名古屋鉄道の三河線ですが、この碧南の地で最初に運行を開始したのは、三河鉄道でした。

鉄道を作る計画はほかにも、明治28年（1895年）に、新川と多治見をつなぐ「参美鉄道」、明治33年（1900年）に、新川と足助をつなぐ「信参鉄道」がありました。参美鉄道の史料『参美鐵道株式會社起業目論見書』には、「当会社ハ、愛知県碧海郡新川町ヨリ岐阜県土岐郡多治見町ニ至ル鐵道ヲ敷設シ、旅客貨物運輸ノ業ヲ営ムヲ以テ目的トス」と記されています。

当時は、この地域の名産品である三州瓦や土管などを作っても輸送する手段が限られていたため、旅客・貨物・運輸業の目的でこれらの鉄道を作ろうとしました。しかし、参美鉄道・信参鉄道ともに資金繰りの悪化などにより計画が実現することはなく、幻の路線となってしまいました。

そのような状況のもと、三河鉄道の計画は実現し、大正3年（1914年）2月に刈谷新駅（現・刈谷駅南方約100m付近）～大浜港駅（現・碧南駅）が開通しました。当初は蒸気機関車や下の写真のような蒸気自動車でしたが、のちに電気を動力として使う電車になりました。昭和16年（1941年）、国の私鉄統合の流れに沿って、三河鉄道は名古屋鉄道と合併することとなり、現在の名鉄三河線となりました。



△三河鉄道蒸気自動車101号（名鉄資料館所蔵）